

教職支援室便り (3月号)

令和3年 3月12日 (金)

文責：教職支援室 曾我文敏

☎0985-20-4808

卒業される皆さんへ

3月になりました。卒業される学生の皆さんは、卒業の日を待つばかりです。また、教職に就く方にとっては、赴任する学校を知らせる通知を待つばかりです。今の心境は、教職への希望と不安が錯綜して複雑でしょう。確かに、教員の業務には厳しいものがあります。学習指導や生徒指導、学校行事や地域での活動など、多くの業務の中で大変な仕事だと感じることがあります。しかし、教職をやりがいのある仕事だと実感することも多くあります。

ここで、私の尊敬する先生の言葉を紹介します。

教師は、「師魂の矢」を千発放って一発当たるかどうか。苦しい中で、児童生徒や保護者の方に打ち続けなければいけません。そして、当たったときの喜びが跳ね返ってきます。

「教育とは、流水に文字を書くような仕事でもある。しかし、それを巖壁にのみで刻むような真剣さで取り組まねばならない。」という理念のもとに、教師は、「師魂」の矢を打ち続けるのです。魂のこもった矢を打ち続けるのです。

これは教育の根幹であり、教員として大切にしたい理念だと思います。一日一日を大切に、根気強く、根気強く支援すること、「信じること」と「継続」ということ。この理念は、教育における不易のものです。教員として、これからの学校教育を担う学生の皆さんに、この言葉を送りたいと思います。誠実に、一日一日を大切に、真心をもって教育活動に取り組んでいってください。

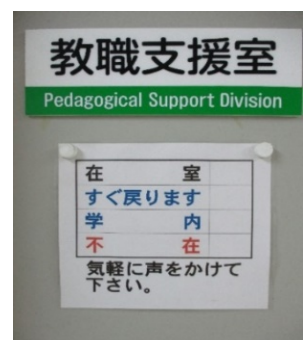
本年度も教職支援室活用に感謝！

3月1日現在 「延べ437名」

本年度も、多くの方々に教職支援室を活用していただきました。本当に感謝の気持ちで一杯です。コロナウィルス対策の中、電話やメール等で相談された方を含めると、3月1日現在で、「延べ437名」の皆さんに活用していただきました。

教職支援室の責務は、本学の学生の皆さんはもちろんのこと、卒業生、学校現場の先生方、教育関係機関の皆様等への支援であると考えます。具体的な支援としては、教職課程の授業（生徒指導、道徳教育、教育実習、教職実践演習）や、教員としての資質・能力の向上を目指す教職特別講座、更には地域貢献を目的とした講義・講演活動などです。

学校教育を取り巻く問題・課題は、年々深刻さを増しています。次年度も、更に多くの皆様に活用していただけるよう、業務の充実に努めていきたいと思っています。



「教職課程履修者オンライン座談会」に参加して

先月2月17日(水)、教職課程履修者(1年生～4年生)による、オンライン座談会が行われました。座談会は、教育実習や教員採用試験等に係る4年生の体験発表や、グループ別協議などで進められ、とても充実した会になりました。

私が参加したグループは、1年生と2年生で構成されていましたが、様々な質問が次から次に出され、時間の過ぎるのも忘れるほどでした。質問としては、主に教職の魅力や困難性、教員採用試験対策などで、次のような内容でした。

- 現場の先生方は、どんな課題をもっているのか。
- 教職の魅力は何か。
- 教員採用試験を受験する際、どのように自治体を選択すればよいか。
- 留学等を経て、教員採用試験を受けることはどうか。
- 教員採用試験に向けて、1年生、2年生の時期に、どのような勉強をしておけばよいか。
- 英語力は、どの程度付けておけばよいか。
- 教員採用試験における模擬授業は、どのように行われているか。自治体によって違いはあるか。
- 教員採用試験では、どのような筆記試験が行われているか。
- 筆記試験において、一般教養を実施する自治体は多いか。
- 高等学校を受験したいが、難易度はどの程度か。 等

今回の会を通して感じたことは、学生の皆さん相互の交流、また教職課程の先生方と学生の皆さんの交流の重要性です。また、1年生、2年生への支援が課題であると、改めて認識しました。教職支援室便り令和2年12月号では、次の内容を掲載しています。

教職をめざす、本学1・2年生の皆さんへの支援も 大きな課題です！

教職をめざす、本学1・2年生の皆さんへの支援は、今後の大きな課題と捉えています。現在、1・2年生の中には、個人的に相談される方はいますが、全体的には教職支援室担当者との交流がほとんどなく、計画的な支援の場の設定が望まれます。「教員採用試験や教職について知りたい」、「今学校ではどのような問題・課題があるのか知りたい」など、支援を求める声も少なくないと聞いています。今後は、様々なニーズに応えられる、体制づくりが重要であると考えます。入学から卒業までの間において、教員としての資質・能力を、組織的・意図的・計画的に育成する取組が、更に求められると思います。

学生の皆さんと教職支援室担当者が語り合える環境、そのような場を、より多くつくっていききたいと思います。

教職支援室担当者としては、学生の皆さんの様々なニーズに応えられるよう、日頃から準備をしているところです。現在の学校教育の現状を踏まえると、教職を目指す人材を大切に育てることが、本学の教職課程の大きな課題であると捉えています。

今回の座談会は、教職課程部会が中心となり行われました。このような取組が、今後も年間複数回実施されることを期待しています。また、教職支援室担当者としても、学生の皆さんと語り合える環境づくりに努めていききたいと思います。

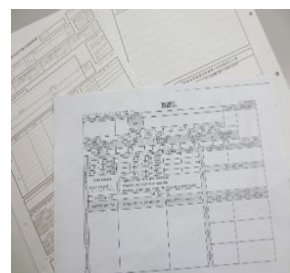
教員採用試験・面接試験の重要性

コロナ禍の中で、本年度の教員採用試験では、日程や試験内容を変更した自治体も見られました。そして、面接試験（人物評価）に重点を置く傾向が強くなったと感じます。各自治体では、教員採用試験の倍率低下の影響や、学校教育を取り巻く様々な問題も相まって、優れた人材の確保が最優先課題となっています。そのために、今後は更に、人物評価のための面接試験が重視されていくと考えます。

このことから、受験者にとっては、面接試験で活用される「自己申告書・調査書・PR書」などにおいて、自己のよさや持ち味を適切に表現する力が重要となります。教職支援室便り令和2年9月号では、次の内容を掲載しています。

《自己申告書等の重要性》

本年度も、自己申告書・調査書・PR書等の重要性を感じています。これらは、面接試験において活用される資料ですが、時間が多く充てられるなど、重要な意味をもつものです。学生の皆さんのアピールポイントが、指定されたスペースの中で、十分に表現されるよう支援することが重要です。また、学生の皆さんの思いが伝わるものでなければなりません。「作文」で終わってはいけないということです。本年度、学生の皆さんは、体験等を踏まえ、厚く、熱く、深いものをつくりあげたと思っています。



さて、次年度の教員採用試験まで、あと4か月あまりとなりました。今月号から3回にわたり、これまで教職特別講座（旧：勉強会）で活用した、「面接試験例」を紹介したいと思います。

- 教員としてのやりがい
- 失敗してプラスになったこと
- 休日の過ごし方のポイント
- 思いやりの心を育てること
- モンスターペアレント
- 最近注目しているニュース
- 教員に適している面
- 教員以外で選ぶ職種
- プロの教員とは
- 友達からの評価
- あなたの教職プランは
- 授業力のある教員とは
- 生徒指導力のある教員とは
- 部活動指導
- ボランティア活動
- 部活動で得たもの
- コンプライアンス
- 懲戒に関すること
- 教育実習の思い出
- 教員が特に大切にしなければならないこと
- 携帯電話の指導のポイント
- 時間の使い方のポイント
- どんな子どもを育てたいか
- ほめ方、叱り方のバランス
- 自分を一言で表現すると
- 教員に適している性格や能力とは
- 教員になるための日頃からの努力
- 教員として自分に足りないと思うこと
- 小学校（中学校・高等学校）教員の魅力
- 小学校（中学校・高等学校）教員に求められるもの
- 教員としての資質（センス）とは
- 責任感とは
- 自分に足りない力を3つ
- 保護者の思いとは
- 大学のよさと専攻内容
- 不祥事に対する認識
- 現場体験の不足
- 通知表の認識
- 保護者対応
- 地域の人材の活用
- 「怒る」と「叱る」の違い
- 体罰に関すること
- 教育実習で困ったこと

道徳の教科化に思う！（シリーズ46）

平成29年の6月号から、「道徳の教科化に思う」をテーマに、道徳授業の本質的な在り方等について連載しています。今回は、学生の方から寄せられた「道徳教育への思い」と、「道徳科における教材分析の在り方」について紹介したいと思います。

「道徳教育への思い」

教科として扱われなかった「道徳」ですが、小学校、中学校で「特別の教科」として位置付けられました。この背景には、道徳授業への関心の低さ、心情理解に偏った指導、教科中心の傾向などがあると思います。私自身も、休校や授業の遅れを取り戻すために、道徳授業がカットされた経験をもっています。これらのことから、教科化されたと理解しています。

私は、教師になった際は、人間の弱さを理解してあげられるような、授業づくりを行っていきたいです。実際、自分の12年間の学校生活を振り返ってみると、弱さを見せることに対して、恥と感じている人が多いと感じます。自分の弱さを、人に見せられない人が、他の人の弱さを受け止めたり、それらを理解したりすることは困難であり、そのような人が多い社会、クラスでは、とても息がしづらいのではないかと考えます。しかし、弱さを見せることが、誰にでもできるかと言われれば、そうではありません。各個人が積み重ねてきた経験を通して、生まれた価値観であるから、そういった考えを否定するのも、また違うのではないかと考えます。

そのため、せめて人間は、だれしも弱さをもっているということを理解すること、また理解しようとする態度を、養うことができる授業づくりをしていきたいと思います。授業では言いにくい（弱さを出すような）考えも、私が投げかけることで、どこかで安心感を与え、弱さが理解できる授業づくりをしたいです。

「道徳科における教材分析の在り方」

1 教材分析の基本的な考え方

ねらい達成のために選択された教材は、多くの価値を含み複雑な構造をもっている。そこで、教材分析が必要となる。教材分析を通して、内容項目（ねらいとする価値及び関連する価値）がどのように含まれているか、教材のどの場面を中心に取り扱うか、教材をどのように提示するか、どのような発問構成にするか等、初めて明らかになる。つまり、教材分析とは、教材の内容に沿って、内容構成と内容項目を明らかにするとともに、発問構成を行い、それに対する児童生徒の反応を考え、教師のはたらきかけを構想する方法ということである。

<基本的な教材分析の方法>

- ① 教材のストーリーの流れを明らかにする。
- ② 主人公の行動と心の動きを追う。
- ③ 登場人物を取り巻く状況を明らかにする。
- ④ 話し合いたい場面を明らかにする。
- ⑤ ねらいとする内容項目や関連する内容項目を明らかにする。
- ⑥ 各場面の発問を設定し、児童生徒の反応を予想する。

また、この教材分析の基本的な考え方を踏まえる中で、特に重要なポイントは、教師の教材を解く力（見抜く力）である。教材を解く力（見抜く力）とは、価値を実現できる（できない）登場人物の心の動き、彼らを取り巻く様々な環境（条件）、人間関係等を考慮しながら、「ねらい」に迫るための授業ストーリーを描くなど、教材の世界に入り込み、想像性をもって分析する力である。これは、授業づくりの大切な要素と言える。更には、価値を実現できない姿は、人間としての「弱さ」として、価値を実現できる姿は、人間としての「強さ」として、発問構成の中心に位置付け、人間理解や価値理解、他者理解を図るなど、道徳科の特質に即した授業づくりが重要である。このような取組を重ねていくことで、教師の教材を解く力（見抜く力）が培われる。

具体的な教材を解く視点については、次項2に示す。

2 教材を解く4つの視点

- (1) 主人公の視点でストーリーに入り込み、主人公や登場人物の表情や口調などを映像化しながら読み込む。
 - 特に主人公の心の動きに注視して、そのときの表情や口調などを想像し、主人公の人柄や価値観等を把握する。
- (2) 文や言葉の中に秘められている、主人公の思いを想像しながら読み込む。
 - 主人公の置かれている状況や背景を踏まえながら、文や言葉から感じられる思いを把握する。
- (3) 児童生徒が、人間としての「弱さ」に気付くことができる場面を特定するとともに、発問（補助発問）を構想しながら読み込む。
 - 主人公の心の葛藤などをもとに、児童生徒が自分との関わりの中で考えたり、多面的・多角的に考えたりするための発問（補助発問）を検討する。
- (4) 児童生徒が、人間としての「強さ」を感得できる場面を特定するとともに、発問（補助発問）を構想しながら読み込む。
 - 主人公がより高い価値観に気付き（出会い）、自己の生き方を自覚する姿をもとに、児童生徒が自分との関わりの中で考えたり、多面的・多角的に考えたりするための発問（補助発問）を検討する。